

ひきこもり 高年歯化

46%が30代、仕事に起因も

内閣府調査

仕事や学校に行かず、家族以外と交流を持たない「ひきこもり」状態にある人の高年齢化が進んでいる。内閣府が7月発表した初の全国調査では、ひきこもりは推計約70万人。このうち30代が全体の約46%を占め、道内でも30歳以上のひきこもりの人や家族からの相談が相次ぐ。問題解決には、医療や雇用など幅広い分野の連携が不可欠で、関係団体などは横断的な支援体制の確立を求めている。

道は昨年7月、札幌市内に「道ひきこもり成年相談センター」を開設。これまでに約1800件の電話相談を受けてきたが、ひきこもりの家を出た方が少ないため、本人や家族が難しいのが課題だ。同センターは、家を出向くための支援ができる「訪問支援」だけでなく、本人と接触できる可能性は高まるが、予算にも人員も限界がある」と話す。

札幌市内で両親と暮らす男性(33)は7年就職したが、26歳で自ら退社し、都廳に転勤し「一人が変わったように暗くなる夜中に台所の冷蔵庫から食事を探す生活を続けた(父親)。辞職し、とは約2年前、深夜にもあつたうまいくい偶然顔を合わせて、閉じこもった。父は親は「どうすればいいか…。『誰かどうにかしてくれ』とも思っ」
内閣府調査は、全国の15~39歳の男女5千人を対象に実施。有効回答のうち、ひきこりでは1・79%、全国で69・6万人に上ると推計した。

このうち、ひきこも



電話相談を受け付けている「道ひきこもり成年相談センター」。相談者の7割は家族で、延べ20回以上やりとりが続くケースもある



明星大大学院

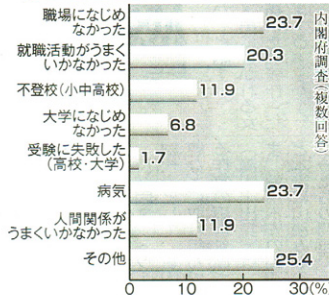
高塚教授に聞く

一方、現代社会は自分の主張を言葉に置き換え、相手を説得する能力が必要という価値観が広がっている。このため、ひきこもりに整備する必要がある。

主張必要な社会で挫折

なが何かを乗り越えることが苦手なタイプが多い。ところが明らかになった。学校では控えて注目されないうまくいかなかった。不登校(小中高校)を受けた(高校・大学)病気が人間関係がうまくなかった。その他

「ひきこもり」になったきっかけ



道は昨年7月、札幌市内に「道ひきこもり成年相談センター」を開設。これまでに約1800件の電話相談を受けてきたが、ひきこもりの家を出た方が少ないため、本人や家族が難しいのが課題だ。同センターは、家を出向くための支援ができる「訪問支援」だけでなく、本人と接触できる可能性は高まるが、予算にも人員も限界がある」と話す。

今回の調査では、ひきこもりの人たちは、自己主張をし、時には人とぶつかり

ひきこもりの高年齢化の背景と求められる対策について、内閣府の調査を手がけた明星大大学院(東京)の高塚雄雄教授が66日臨床心理学、写真に聞いた。